

裁判員経験者との意見交換会（令和4年9月12日開催）



Aさん

- ・事件を生で見聞きして、こんな事件が本当にあるんだなあと思い、よい勉強になった。
- ・検察官作成の冒頭陳述メモがとてもわかりやすかった。また、被告人を弁護する弁護人の力はすごいと感じた。

Bさん

- ・コロナ対策はしっかりとされていた。一方で、マスクで被告人の表情がわかりにくかったので、工夫が必要だと思った。
- ・傷の写真などの証拠について、イラストと写真の選択制にできるとよいと思った。

Cさん

- ・審理期間が長く、被害者の話を聞いていると、辛くなったりもしたが、裁判官や他の裁判員と議論して、判決を導くのはよい方法だと思った。
- ・審理や争点、当事者の主張について、専門用語ばかりではなく、わかりやすい言葉が使われていてよかった。

Dさん

- ・裁判員裁判に参加してとてもよかった。思っていた以上に、判決までの道のりを長く感じたが、その過程は非常に充実した時間だった。
- ・家族からは応援してもらえた。裁判が始まる3週間前頃までに選任してもらえると、仕事の調整がしやすく、ありがたい。

Eさん

- ・裁判員裁判に参加し、裁判官を身近に感じられるようになりよかった。裁判官に対するイメージが変わった。
- ・専門的な話は、最初はよくわからなかったが、裁判官や他の裁判員と議論をする中で理解が深まった。

司会裁判官からひとこと

「裁判員の活動」

検察官や弁護士は、法廷ではわかりやすい言葉を使って主張や説明をされています。裁判員は証人や被告人に直接尋問する中で、次第に疑問を解消しているようです。判決に至るまで簡単ではない事件もありますが、納得いくまで話し合います。

「参加しやすい裁判を目指して」

裁判員として参加するのに支障がないように、仕事の調整がつきやすい日程となるように心がけていきます。裁判の仕組みをわかっていただけのような制度説明会にも力を入れていきます。



ご参加の皆さま、ありがとうございました。